

重戦車が行く '09 春

3 日目：枕崎～薩摩川内 76km

< ハートに火をつける >

昨日の不甲斐なさを吹っ飛ばそうと、未明 4:00 に宿を出た。ここで気合いを入れておかないと、取り返しのつかないことになる。枕崎～いちき間は、電車は通っていないのだ。途中カットは絶対できない。

枕崎市街外れにあるファミリーマートで、おにぎりを 3 つパックに詰める。20km 先の加世田までは何も無いと聞いたからだ。大きな峠が 2 つあるとのことだった。

こんな暗い内から散歩する人はいるもので、時々角でパツパツと出くわし、お互いにハッとすると、一瞬間を置き「おはようございます」と挨拶を交わすのだ。相手からすれば、異様な恰好の私は、怪物か何かに見えるだろうか。「驚かせてすみません」と付け加えるのを忘れなかった。

2 つ目の峠のてっぺんに、「にいななまる」という道の駅があった。ようやく空が白み始める。ここから加世田までの 10km は、ずっと下りで楽だった。

市街地にさしかかるところで、一台の自転車が追い付いてきた。早朝散歩らしく、話しかけてきた。しばらく並走して、事の顛末を話した。

加世田の街並みは整然としており、歩道が全部タイル張り、脚に優しくかった。ちょうど通勤通学時間帯で、子供達は、ここでも挨拶が素晴らしかった。元気のよい朝の挨拶は、こんなにも心を清々しくしてくれるものなのか。ならば、やらない手はないな。みなさん、朝の挨拶は「元気一発」でいきましょう！

加世田の街を気持ちよく抜けたのはいいが、じわじわと前 2 日間の疲れがにじみ出てきた。何か腹に入れておかななくてはと思うが、なかなかコンビニがない。阿多交差点の手前で、通学中の小学生に「どこかお店はないか」と尋ねると、「すぐそこにあるよ」と言って連れて行ってくれた。よく躡けられているもんだ。鹿児島県の教育レベルは非常に高い。

この店で、ジャムマーガリン入りのコッペパンと豆乳を調達した。そう、豆乳だ!! すっかり、こいつのことを忘れていた。

私は、昨年末から一切の乳製品を断ち、豆乳を摂っている。それ以前は、牛乳 10、ヨーグルトは自家製のをどんぶり一杯食べるほど、乳製品が大好きだった。しかし、乳製品を摂り続けていると、前立腺ガンのリスクが高くなるとのことから、「ええい、儘よ！」と一念発起し、アッサリと止めたのだ。どんなガンにもなりたくないが、前立腺ガンだけは御免こうむりたい。手術や治療でアソコが立たなくなると言うのではないか。アソコがたたなくなったら、男は終わり。そんなん止してくれだ。

という単純明快な理由で豆乳なのだが、結果は棚牡丹である。コレステロール値は下がるわ、尿酸値は下がるわだ。それに豆乳はうまいし、いいこと尽くめだ。

さて余談が長くなったが、結局この豆乳で体に火がついたのだった。阿多交差点を左折すると、急にペースがあがった。一体どうなってんだ、俺の体は。

ジャーニー3 日目になると、ペース配分のことは頭から消す。とにかく、どげえかして午前中に50km は稼いでおきたい。行ける時に行っておかなければならない。阿多交差点で25km だから、あと20km このペースが続けばいいなと思った。

「きんぼう木花館」という道の駅で30km、吹上交差点で35km と着実に稼いでいく。この間にあったローソンで、トイレと豆乳補給をした後国道に戻ると、朝方、加世田で出会った人が串木野へ勤めでもいくのだろうか、車から手を振って応援してくれた。

ジャーニーランの目的の一つは、「人との出会い」だ。食に満たされ、酒にみたされ、人に満たされていく。こんなシアワセなことが他にあるか。脚が痛かろうと、体がだるかろうと文句を言うな。さあ、ハートに火をつけろ！

花熟里を過ぎ、吹上浜をひたすら北上して行く。道はずっと良い。吹上浜は確かにきれいな海岸ではあるが、昨春「藍が沁みる」の日南海岸には敵わない。絶世の美女を見た後に、フツの美女を見るようなものだ。

吹上の北端となる江口海浜公園にやって来た。53km 地点だ。12:00 で、理想的な展開である。腹ごしらえをしたいが、レストランしかない。5km 先の市来でなんとかしようと思い、3号線には入らず、海岸寄りの270号線を選んだ。

峠のてっぺん辺りに、茶屋風の食堂を見つけた。腹ペコなので、躊躇わず入って大盛りラーメンとビールを注文する。川内まであと20km 余り、時間的に余裕があるので、大休止を決め込んだ。

店には私よりちょっと年配の人がいて、頻りに話しかけてくる。経緯を説明すると、「川内は目と鼻の先じゃから、ゆっくりしていきなさいよ。」と言われ、その気になって2本目のビールを注文した。そこへもう一人のお客さんが現れ、目の前で血糖値を計り、矢庭にお腹を出してインシュリンを注射した。重度の糖尿病らしく、食事の前には必ず血糖値を計り、注射をするそうだ。

「今日は調子がいいぞ。よし、うどんをもらおう。」とカケうどんを頼み、持参の弁当を広げ始めた。そして、私の方に向き直り、「これが私の愛妻弁当なんです。全部糖尿病患者用に、手をかけて拵えているんです。よかったら食べてみて下さい。」と言って勧めた。

卵焼きを一つもらい口に入れるが、味が薄くて咽喉を通らない。

「とても食べられたもんじゃないでしょう。こんなものを、私は3年間も食べ続けているんですよ。本当は、あなたみたいに食べたいんです。私は、今年還暦なんです。55歳の時に会社を興ましてね。当時は忙しすぎたこともあり、不摂生極まりない生活をしてたんです。暴飲暴食、煙草は一日50本、糖尿なんて省みもしなかった。ところが、3年前に医者から、『あんた、このまんまじゃ、あと5年で死ぬよ。せつかく会社を立てたのに、行く末は見なくてもいいのか。』と言われたんです。目が覚めました。それ以来、妻と二人三脚で糖尿と闘っているんです。秋には、子供たちが還暦祝いに湯布院旅行をプレゼントしてくれましてね。今から楽しみです。あの時、医者の言うことを聞いていてほんとによかった。」としみじみと語ってくれた。

ジャーニーランは、正に人生の縮図だ。様々な人との出会いがある。今回の人に出会って、私は改めて自分の体の健全さを思い知らされた。日々の鍛錬もあるけれど、私に丈夫な体を与えてくれた両親と先祖、理解し支えてくれる妻と子供たち、応援してくれる塾生、そして走ることの喜びを

分ちあえる大分 UMC の仲間達。この旅は、決して私独りの力で続けられている訳ではない。大勢の人が背中を押してくれるから、私は進むことができるんだ。胸にこみ上げてくる思いをグッと堪えて、店を後にした。

峠を下ると市来の町だ。いちき小学校の校門の前で、児童が掃除をしていた。その内の一人が、「おじさん、何してんの？」と尋ねてきた。「斯く斯く云々じゃ」と私が応えると、全員箒を放り出してパチパチパチと拍手した。スタンディングオーベーションてやつか。全くもって、鹿児島の子供たちにはやられっぱなしだぜ。

市来を過ぎると串木野に入る。ここで線路と再会だ。一日会わないと心細い。なんたって、へこたれカットには電車が要るからね。必需品なのだ。

しばらくするとでかい学校が現れた。あの、野球やソフトボールで有名な神村学園だ。てっきり鹿児島市内にあるのかと思っていたが、ここにあったのか。デカさが、東明高校や延岡学園の比ではない。送迎用のバス、大型 12 台、中型 10 台がズラリと並んでいた。こんな学校見たことない。すっかり度肝を抜かれ、しばし佇んでいた。

串木野を出ると、川内まで 12km だ。自転車で日本一周中の人追い付いてきて、しばらく並走しながら話をした。今日は、人との出会いが多い。素敵なジャーニーだ。

川内スーパーホテルに到着したのは、16:30 だった。速攻で風呂に入り、洗濯を済ませた。このホテルのコインランドリー機は高速だ。30 分もあれば終わってしまう。これが、スーパーホテルを使う理由の一つだ。洗濯に時間をかけてはいけない。

今宵の晚餐は焼き肉にする。旅の最中に、一度は焼肉を食べたくなる。近くに格好の焼肉屋があったので、思いきって入った。焼肉屋に一人で入るのは、本当に勇気が必要なのよ。

残念ながら、松阪市の「一升瓶」の様な回転焼肉ではないが、味もそこそこで量が多い。たらふく食ってホテルに戻り、ナイスな一日に感謝して眠りに就いた。